

★ 操 作 方 法 ★

ページの上でクリックすると次のページを表示します。右クリックすると前のページに戻ります。

※ Macintosh で、マウスに右クリックの設定をしていない方は、キーボードの「control」キーを押しながらマウスをクリックすると前のページに戻ります。

※ iPad では、上下スクロールでご覧いただけます。

かたおか徹治



プロフィール
1952年大阪市にて生まれる。1971年山上たつひこ先生に師事。浪速短期大学美術学部デザイン科中退。1972年『ミラーマン』（小学三年生/小学館）等3学習誌で同時デビュー。



絵を描くのが好きだった少年時代
〜漫画家を志すまで

生まれは大阪です。はい、市内でした。小学校1年のときに郊外の摂津市に引っ越したので、市内に住んでいたときの記憶は、あんまり覚えてないです。ただ、幼稚園のとき「子供二科展」というのがあって、それに入選したことがあったんですよ。みんなでお遊戯をしているところを描いた

んだけど、見事に入選してね。それ以来賞というものに縁はないんだけど（笑）。
もともと絵を描くのは好きでした。実は僕の叔父貴が画家なんですよ。お袋の弟なんですけど、大阪市内に住んでいたときはよく遊びに行って、紙や色鉛筆をもらったりしました。僕自身はよく覚えてないんだけど、どうやら叔父貴から絵の描き方を教わっていたらしいんです。大きくなつてから叔父貴にそう言われたことがあったから、たぶんそうだったと思うんだけど。



昭和31年2月(4歳)
叔父さんのアトリエに
て。この頃から絵に
興味を持つように洗脳
(?) されていた……!?

叔父貴は今でも現役の画家です。西井義晃
といつて、外国の風景画や静物画を描いていま
す。僕が遊びに行つてた頃は、叔父貴はまだ学生
だったみたいですけどね。画家の血を引いてる？

うーん、どうなんだろう
(笑)。自分ではわからない
なあ。

摂津というところは、田ん
ぼばかりのところだね。そ
れまでお百姓さんの家しかな
かったんだけど、僕らの一家
のような、大阪市内から移住
してきた人がだんだん増えて
きて、町として膨らんできた
時代だったんです。映画館も

なくて、隣の吹田市まで行かないと駄目でした。

だから娯楽というと、もっぱらテレビ。『月光
仮面』とか『怪傑ハリマオ』に夢中でしたね。ア
ニメは海外の『ウッドペッカー』やディズニーを
やってましたから、それも大好きでした。日本
製のテレビアニメはまだやってませんでしたね。
『鉄腕アトム』は僕が5年生になった年に始まり
ましたから。

初めて漫画というものを意識したのは、2年
生するときかな。風邪ひいて学校を休んだだけ
ど、そのときお袋が「少年マガジン」を買ってき
てくれたんです。へえー、こんな漫画雑誌がある
んだ、と。

3年生のときに、転校してきた子が黒板に「鉄
腕アトム」の絵を描いたんです。僕も負けじと

ウッドペッカーの絵を描いて。その頃からかな、漫画にとっぷりとはまっていたのは。それで5年生のとき、辻君という子が手塚治虫さんの『マンガのかきかた』という本を持っていたんですよ。それを借りて、一所懸命ノートに写した記憶があります。その辻君が、「自分が原作を書くから、お前は漫画を描け」って言うて。内容ですか？ ロボットものです。辻君が書いたストーリーを元にしたもので、ほら、『鉄腕アトム』で「地上最大のロボット編」ってあったじゃないですか。あんな雰囲気です。ペン入れもしたんですけど、うやむやのうちに未完になっちゃった。

その頃には、はつきりと将来は漫画家になろうと思ってきましたね。小学校の卒業文集にも将来の夢は「漫画家か動物園の飼育係になりました」って書いたし（笑）。



高校生でアシスタントの仲間入り
〜山上たつひこ先生に師事して

手塚さんの『マンガのかきかた』のあと、石森章太郎さんの『マンガ家入門』が出たんです。あれはものすごく衝撃的で、以来、大の石森ファンになったんです。それが中学の頃かな。もう漫画のことばかりだったから、さすがに親はいい顔しませんでしたね。勉強しろと、そればかり（笑）。

でも漫画家になろうという気持ちは高まるばかりで、実は松本零士さんに手紙を出したんです。アシスタントになりたい、って。ほんと身の程知らずというか（笑）。でもまともな返事はなくて、松本さんと奥さんの牧美也子さんが描

いた犬のイラストのハガキが届いただけでした。

ファンレターの返事みたいな感じでしたね。当時、そういうものがよくあつたんですよ。読者サービスの一環なんでしょう。

あと中学3年のとき、小畑しゅんじさんにも「アシスタントしたい」という手紙を出しました。そしたら電話がかかってくる、「来るか？」と言われたので、「親に相談してみます」と言っ
て切つたんですよ。で、親に「高校行かないで漫画家になる」つて言つたら、もう、大反対で。それで断わざるを得なくて。

中学の卒業文集には「10年後の俺を見ろ！

大泥棒になってやる！（皆の注目を浴びるという意味で）」つて書きました。反抗期というか、とんがっていたんでしょうね（笑）。

高校は親に言われたのもあつて、普通科の高校に行きました。美術部と漫画部を掛け持ちしていました。美術部ではちよつとアートなこともやつてましたね。レコードジャケットみたいなデザイン画を描いたり、ヌード写真をカラージュしたりしていました。いわゆる普通のデザインって嫌いだったんですよ。先輩には「片岡の作品はデザインじゃない！」つて言われましたけど。どこか漫画っぽいものになっていたかもしれないですね。

高校を卒業する段になって、上京して漫画家になる！と思つていたら、また親の説得にあつて、しぶしぶ短大の美術科に入ったんです。と、同時に山上たつひこ先生のアシスタントになりました。というのも、当時、「ごん」という漫画雑

誌があつたんですよ。それで山上先生の漫画を見て、すごい衝撃を受けたんです。それで石森ファンから山上ファンに鞍替えして（笑）。

山上先生は当時、大阪市の大正区に住んでいました。住所を頼りにあちこち聞き回って、やつと見つけたら、先生は留守で。代わりに先生のお母さんが出てきて「電話番号教えるから、今度は電話してからいらっしやい」と言われて。

それであらためて電話して、先生に会って、作品を見てもらったりしました。当時、1か月か2か月に1本ぐらい描いていたので、何本か批評してもらって、出来のいいものは「少年ジャンプ」に送ったりしました。全部駄目でしたけどね（笑）。

そのうちに先生のアシスタントをするよう

になって、有名な『光る風』の最後のあたりをちよつと手伝った記憶があります。大学行きながらやっていたんですけど、だんだんアシスタントをしながら、たまに大学に行くようになってちやつた（笑）。『光る風』が終わって、そのあと「少年サンデー」で『旅立てひらりん』が始まったあたりはほとんど大学に行かなくなっちゃいましたね。

山上先生から教わったことですか？ そうです。先生って、いろいろ本を貸してくれるんですよ。それを読んではまた借りるということを繰り返していました。本を読むということは、物語の構成を考える、ということもあるし、思想的なことでもあつたと思います。借りた中で大江健三郎だけは、さっぱりわかんなかった（笑）。

『旅立てひらりん』の連載が終わったあと、山上先生が突然上京しちゃったんです。それで一緒についていこうと。これでやつと親を説得できる口実ができたと思いました。いや、山上さんが「来てくれ」って言ったわけじゃないんですよ。僕が勝手についていっちゃいました(笑)。



プロデビューまでの道のり

代表作『ウルトラマン』と『ファミ魂ウルフ』

上京したのは19歳のときでした。山上先生の手伝いをしながら、イラストの仕事をやったり、出版社に行くと、編集者からアシスタントをしないか？ って言われたりして、そこでいろいろ横のつながりができていきました。

小学館の学年誌の編集部に出入りするよう

なったときに、内山まもるさんのファンになっちゃったんです。当時『ジャンボーグA』を連載させていました。小学二年生夏の増刊号『かがやけウルトラの星』を手伝ったのは21歳位『ウルトラマンタロウ』の特集のカットを描いていた頃です。

デビュー作は『ミラーマン』です。小学館の学年誌の編集部にたまたま行ったら、『ミラーマン』を描いていた人が逃げちゃったらしく、描いてみない？ って言われたので、二つ返事で描くことにしました。特撮番組のコミカライズなんて、自分に描けるかな、と思っていたんですけど、内山さんのところでの経験もあったから、なんとかなると思つて。

自分の漫画がゲラ刷りになったときは嬉し

かったですね。そのゲラをじーつと見つめていた記憶があります。両親も買ってくれて、結構喜んでくれました。ようやく一本立ちできたな、という気がありました。

代表作ですか？ やっぱり「別冊コロコロ

ミック」で描いた『ウルトラマン』かな。「小学二年生」で『ウルトラマンタロウ』の特集記事

のイラストを描いていたのがきつかけで、連載が始まりました。

ウルトラ兄弟物語1

双葉社・刊



ファミコンウルフ1

徳間書店・刊



「酒を飲んで酔っぱらうウルトラマンを描いたのはお前だけだ」と言われるんだけど（笑）、編集者と一緒に『ウルトラ』を通した大口マンを

描こうとしていました。原案は編集者が持つてきて、それに肉付けをしていった感じでした。映画からの引用も多くてね。酔っぱらいのウルトラマンも『荒野の七人』のロバート・ヴォーンがモデルです。

編集者の力は大きいですね。自分の意志だけで描いていると、それが本当にいいものかどうか。そういう悩みは常につきまとうんですよ。そのときに頼りになるのが編集者です。まあ編集者にもいろんなタイプがいて、親身になっていろいろ意見を出してくれる人のほうがいいものが出てきた気がします。

投げやりな編集者もいましたけどね。すごく愛想が悪い人とか（笑）。編集者の言うことにはいち反発しても仕方ないなと思って描くんで

すけど、結局イヤイヤ描いているんですよ。そうになると、やっぱり出来も良くないわけで。

好きに描かせてもらったのは、『ウルトラ超伝説アンドロメロス』のコミカライズの『アンドロマルスの戦い』でした。主役のマルスを通して自分のテーマみたいなものを描いたんです。でも受けなくてね。自分が気に入った作品に限って人気が出ないという（笑）。やっぱり編集者に作品の補正してもらいながら、描いたほうがいいんじゃないでしょうか。

もう一本の代表作は徳間書店の「わんぱくコミック」で連載した『ファミ魂ウルフ』。いやあ、描いているときは本当に楽しかったですね。特に連載の後半は好きに描かせてもらったから。

ファミコンの漫画誌で、ファミコンは全然できな

かったけど、ゲーマーの人にプレイしてもらったのを見て、画面をプリントアウトしたのを参考に描いてました。

僕はね、動物の漫画を描きたかったんですよ。それはデビューする頃から思っていたことなんだけど、当時の編集者からは「売りたいんだつたら、学園モノを描け」って言われてね。それもあって、なかなか描く機会がなかったんだけど、『ファミ魂ウルフ』で主人公のウルフの親として狼を出すことができたし、ウルフも野生児で動物に近い。だからある意味、動物モノだし、描けて良かったと思います。



学習漫画やハウツーものを経て 〜現在もまだまだ模索中

女房と知り合ったのは、30歳ぐらいのときでした。彼女も漫画家で、小学館の編集者に紹介してもらったのがきっかけです。女房が自分と同じ職業で良かったと思っています。彼女はギャグ

まんが偉人物語・集英社刊
織田信長を掲載



コロコロ伝説・小学館刊
呪い猫の恐怖を掲載



ね。

娘が一人いるんですけど、ちょうど「ウルフ」と同じ年なんですよ。『ファミ魂ウルフ』が始まった年に生まれたんですけど、その頃はなかなか仕事場から帰れなくて、大変でした。娘にとって、両親が漫画家というのは、どういう感じなんでしょうね。ある意味、影響を与えているとは思うけどね。小さい頃から親が漫画を描いているのを見せているし、実際、娘は芸術系の学校に行きましたから。でもいい影響を与えたかどうかはわからないなあ（笑）。

もし漫画家じゃない人と結婚したら、いろんな問題が出てきたと思いますよ。僕なんか生活はメチャクチャだったし

漫画家生活を振り返ってですか？ うーん。まだ模索中というか。若い頃はほんとにがむしゃらでした。転機になったのは、学習漫画を描き始めたあたりですね。すごく楽しい仕事で、勉強に

もなつたんですけど、織田信長とかファールとか、あれは一冊ごとの仕事じゃないですか。あとハウツー漫画もそうなんだけど、単発の仕事が増えていきました。その頃にはもう漫画雑誌の現場からは離れてしまったので、これからどうしようかという感じですよ。

漫画の魅力って、何でも取り入れることができるるところだと思っんです。ファミコンもそうだったし、その時、興味のあることを漫画にすることができるところから、そこがいいんじゃないかな。だから、なんとかしたい、という気持ちはあるんだけど。自分の興味を持てるものを見つけないから、ね。

今号の「つれづれ草」に描いたのは、年を取ったウルフが現代に現れる話です。まずはこの漫

画を仕上げた新たな道を見つけていきたいと思っています。その中できつといい出会いがあるはずだし。

●インタビューを終えて

正統派の少年漫画。かたおかさんの漫画を読むと、まずその言葉が浮かんできました。常に前向きで、正義感に燃え、困難に打ち克つ主人公たちの姿に、当時の子供たちはさぞかし熱狂したでしょう。「女房に明治生まれじゃないの？ って言われます」と笑うかたおかさんは、物静かで決して饒舌な人ではないのですが、心の奥に熱いものを持っている人だということが伝わるインタビューでした。次回作を切に願います。

文／中島泰司

2009年6月26日

上野ルノアールにて

5巻目出せよ～!!

かたおか徹治

け
警察呼ぶぞオ!

家宅侵入罪で...

な
なに言ってるんだ
オマエは...!

いつの間にか来たんだ?

な...
なんだよオ
オマエは
...!?

オラ
死んでも
死に切れ
ねえべさ!

5巻目
出せよ
...

去年BSフジの
「ゲームセンター
CX」#69で
オラの紹介
されたのを
知ってるだか？
あ、

ああ…
製作会社から
依頼があつて
ビックリしたよ
もちろん
二つ返事で
是非にと
お願いしたが…

そこで
「よるい」の
有野さんが
単行本の紹介を
してくれたが
5巻目がないって
言ってただ…

う…
それは…
本来なら
5巻目までの
原稿があるんだが
…
いろいろ
事情があつて…

なんで
こんな事
オマエに
説明せにや
いかんのだ！
早く
出て行って
くれ！

と…
父ちゃん…
実のムスコに
それは
ねえべさ…！

アホが
オマエ…！
ワシには
ムスメはおるけど
ムスコは
おれへんぞ！

あ、

な
何するんじゃ
オマエ…

いつの朝にか大坂弁





完全楽屋落ちまんが
5巻目出せよ!!
おわり

オヤジのありものねじり ～さば水煮缶～

水煮缶は我家（イヤ、私だけ…？）の常備食材で、鍋のメインに、フタを開け麺つゆとネギを入れおつまみにと、その場に合わせて色んなものに使えて便利な食材です。



さば雑炊

〈材料〉

- ・ごはん～1杯弱（ごはんパックや解冻ごはんでもOK）
- ・さば水煮 1/2缶（中のつけ汁は、出し汁として使用）
- ・タマゴ1個（タマゴスープの素1人前でもOK）
- ・ありもの野菜のみじん切り（冷蔵庫にある残り物で）
- ・水500cc
- ・乾燥ワカメ

〈作り方〉

- ①土鍋（フタ付き鍋でもOK）で水を沸かしサバと煮汁、野菜を入れ麺つゆなどで味を整える。
- ②火が通ったらさっと水洗いしたごはんを入れ、ひと煮立ちしたら溶きタマゴを入れ火を止め蓋をし30秒で出来上がり。お好みでネギのみじん切りや海苔の佃煮などをトッピング。

ひきずりうどん（つけ麺関西風）

～古い関西人でするので、お好みで納豆を加えて下さい

〈材料〉

- ・うどん（乾麺）1束
- ・さば水煮 1/2缶
- ・タマゴ1個
- ・ネギみじん切り
- ・麺つゆ



〈作り方〉

- ①乾麺を茹で水洗いし、ザルにとる。この時ひとつまみごとにザルにとると食べやすい。
- ②ボールにサバをつけ汁ごと入れほくし、麺つゆ・タマゴ・ネギ等を加えてつけ汁を作る。